

友人の訃報 訃報と理解するまでにはかなり時間がかかる  
笑えない冗談であってほしかったよ、また遊ぶ約束していたじゃん  
翌日の出勤は思っていたより普通にできた そう、普通に  
死に近いところで生きていたからか涙は出ない 冷たい夜風  
自殺まで追い込んだもの全部全部全部わたしは絶対許さない全部  
最後に見た景色はなんだったんだろう わたしの部屋で考えている  
天井の規則正しい紋様がこの世の全てみたいに見える  
自殺という言葉の重さ 希くば苦しむことなく安らかであれ  
手で触れて温かかった思い出をずっと忘れないようにしたい  
友人がこの世の息苦しさから逃れられていることを願う  
世間的には良くないこと。でも友人にはそれが唯一できた抗い  
たとえば、終わることない苦しみがあつたらあなたは何をしますか？  
残された者の苦しみなど特に考えないで安らかでいて  
確かに、わたしは悲しみの中にいるけどあなたに責任はない  
苦しみから立ち直ることができたらあなたが謝ることはないのよ  
わたしから見ればあなたが死んだのはこのいきぐるしい世界のせいだ  
ひとしきり悲しんだあとこの世界をずっと憎んで生きるのだろう  
このいきぐるしい地上のどこでどうすれば、生きろと励ますことができよう  
あなたが殺した 差別は人を殺しうる 責任を取ることもしないで  
わたしの、大切な大切なひとを奪ったことを許せるものか  
呪って呪って呪って呪って生きてやる このいきぐるしい地上のことを  
いつかは、呪って生きたこの世からあなたのもとに静かに行ければ  
静かになって言ったけれど、おしゃべりが好きだからちよつとうるさいかもね  
また、一緒に笑顔で会えるかな 一緒にラーメン食べられるかな  
早食いのわたしと少食のあなたで行ったラーメン屋のことなどを  
サイゼリアで夢中で間違い探しして、水をこぼして、なんだったっけ  
こうやって、楽しい記憶が浮かび出てくるよ、本当にありがとう、ね  
あなたの声を忘れてしまうかもしれないことが一番怖いよ、あのね、  
わたしのわがままであるのはわかっているけれど、あなたには生きていてほしかった  
蠟燭の蠟の流れてゆくようにあるいは静かな夜明けのように